



梅花新聞【香里】
第48号

題字 管長 石附周行 禪師
発行 者 服部 秀世
発行 所 曹洞宗宗務庁
企画編集 伝道部詠道課

お誓い

- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。
- ・私達は梅花流詠讃歌を通して、明るくい世の中をつくりまします。

「衆善奉行」の実践

明けましておめでとうございます。年が改まりますと、心が清々しく、そして身を律して引き締まる思いがします。

今年は、大本山總持寺におきましては、明年の開山太祖瑩山紹瑾禪師七〇〇回大遠忌の予修法要を迎えることとなり、報恩行に一層の精進を期する年となりました。

梅花流講員のみなさまにおかれましては、詠讃歌を通して「お誓い」の実践に精進され、コロナ禍を克服されての日々をお過ごしのことと思います。

中国の唐代に、お寺の松の木の上に住ん

曹洞宗管長
大本山總持寺貫首

石 附 周 行

でいたという風変わりな道林和尚というお坊さんがいました。そこへ、有名な詩人白樂天がやってきて問います。「仏教の根本の心は何んですか」と。道林和尚の答えは「諸悪莫作 衆善奉行―悪いことをせず 善いことをすること―」でした。白樂天は「そんなことは三歳の童子でも知っている」と道林和尚をやり込めます。道林和尚は即座に「善悪の別は三歳の童子でもわかるが、実行は八十歳の翁にも難しい」と言い返します。

つまり、「知る」と「実行する」との間に

は大きな隔たりがあることを心することです。「絵に画いた餅」でなく、お正月の本当のお餅をよくかみしめたいと思います。

合掌

梅 早春を開く

あけましておめでとうございます。

昨年10月16日に宗務総長に就任しました服部秀世です。どうぞ宜しくお願いします。

70年余り前、梅花流は静岡を舞台に発祥しました。以来、全国各地に伝道され、今日の成熟を迎えています。改めて梅花流に注がれた先人たちのご苦勞に思いを馳せ、大切に守り伝えていくよう努めて参る所存です。

長引くコロナ禍で、各寺院の活動は冬ごもりのような状態が続いている感があります。梅の花が開いて春を誘うように、梅花流の明るい歌声から、活発な宗門を取り戻していきたいものです。

皆様の元気な笑顔とお唱えに期待しています。

瑞氣梅花に満つ

昨年10月に伝道部長に就任しました戸田光隆でございます。2年間の任期中、梅花流の維持発展に精一杯努めて参ります。

さて、5月には、4年ぶりとなる梅花流全国奉詠大会を開催いたします。従来と比べ規模を縮小しての実施となりますが、今後の指針となるような大会にすべく準備を進めております。

また、次年度より、檀信徒の検定教階削減等の諸改革が施行されます。講員の皆様が、いつまでも活き活きとお唱え続けられるよう、制度面の充実を図って参りたいと存じます。

梅花流を通して、皆様と出会えることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひ致します。



衆善奉行

總持周行



服部秀世 (はっとりしゅうせい)
平成26年より曹洞宗宗議會議員
曹洞宗財政部長・梅花講審議員
参与などを歴任
静岡県静岡市
浄元寺住職



戸田光隆 (とだこうりゅう)
富山県宗務所長・北信越管区
管区長などを歴任し平成25年
より曹洞宗宗議會議員
梅花流4級師範
富山県中新川郡
立山寺住職

梅花流詠讃歌洋楽譜発刊

曹洞宗宗務庁は昨年10月、『梅花流詠讃歌洋楽譜1 伝承曲編』と、その他の全曲を収めた『梅花流詠讃歌洋楽譜2』の二冊を出版・発売した。

この度の出版は、前宗務総長の鬼生田俊英正伝師範の強い希望で実現した。

この洋楽譜をきっかけに「より多くの人に詠讃歌に触れてほしい」、「梅花流を知らない人たちにも詠讃歌に親しんでもらいたい」、「童謡を口ずさむように楽しんでお唱えしてほしい」という想いが形となった。

鬼生田師範は、かつて梅花流特派師範として全国各地を巡回して梅花流の魅力を伝えるとともに、梅花流師範養成所の主任講師を務めるなど後進の育成にも力を注いできた。養成所では、五線譜のテキストにピアノやフルートも用いて指導していたそう。通常、梅花流の詠唱には梅花符の教典を用いるが、学ぶ人の立

場になって分かりやすく伝えるためには、洋楽譜が有効な手段とのこと。令和4年の梅花流創立70周年に際しては、23曲を二部合唱にした譜面を配布するなど、新しい試みも行ってきた。

梅花講師だけがお唱えするのではなく、みんなが一緒に歌える仏教音楽としたいという方針の顯れで、これからの梅花流に必要な要素を示したと言える。

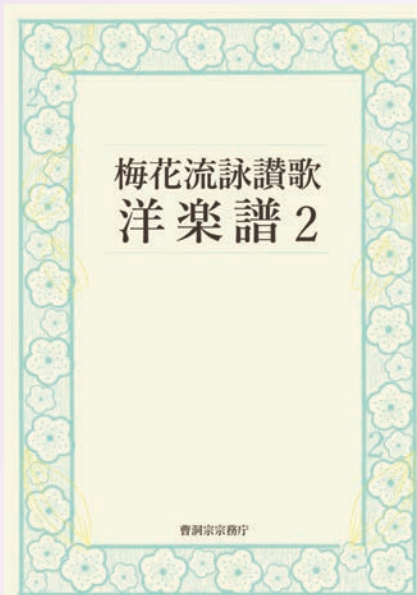
鬼生田師範は、この洋楽譜が広い世代に受け入れられ、梅花流が再び活気に満ち溢れることに期待を寄せる。また、音楽に国境はなく、「世界中に梅花流の素晴らしさを届けたい」という鬼生田師範の願いが、この洋楽譜に込められている。

両冊共にA4サイズで、『梅花流詠讃歌教典』の曲順に楽譜と歌詞を掲載している。

なお、伝承曲編は令和5年度梅花流全国奉詠大会参加者に記念品として配布する。



価格 1,650 円 (税込)



価格 3,850 円 (税込)

合唱レッスン

平林さんが合唱を指導

東京都町田市の宗保院^{そうほいん}で12月2日、梅花流詠讃歌を二部合唱に編曲した平林^{ひらばやし}龍^{りゅう}さんを招いてレッスンが催された。近隣寺院の檀信徒も含め、38人が参加し美しいハーモニーを響かせた。

「梅花服を着た方がこんなに集まるのは久しぶりで嬉しい。今日は肩肘張らずに楽しんでほしい」と、鬼頭広安住職が挨拶して始まった歌の会。温かく迎えられた平林さんが、まずは『荒城の月』を歌いバリトン歌手の美声を披露した。

軽く発声練習をして、最初のレッスン曲『聖号』へ。ハモリパートを、平林さんが丁寧に指導していく。何度か練習して、いざ合唱してみると……見事にハーモニーとなり、自分たちでも驚きの拍手！ほんの数分でコーラス隊が出来上がった。

その後は『三宝讃歌』や『太祖先常済大師瑩山禅師讃仰御和讃』などを練習。「難しそうでも無理」と言っていた方々



優しく指導する平林さん



ハモリパートを練習する参加者

が、指導により上手に二部合唱でき、ピアノ伴奏で活き活きと歌っている様子は新鮮だった。平林さんのミニコンサートもあり「すごく楽しかった、元気がでた」との感激の声が聞かれた。「皆さんよく声も出て、とてもお手でした」と平林さん。新しい学びがあると、詠讃歌はもっと楽しくなると教えてくれた。平林さんは、令和5年度梅花流全国奉詠大会に出演することが決定している。

ばいがクイズ



さて、この曲は何でしょう？

(衆)



禅の友

新たな連載がスタート

曹洞宗の月刊誌『禅の友』。令和5年1月号より、「諸行無常のひびき」と題して山中律雄師範が寄稿するコーナーが始まった。

山中師範は1996年から24年

かす。

間特派師範を務め、現在は専門委員として梅花流の興隆に寄与している。一方、歌人としても名高い。これまで出版した歌集は5作を数え、禅僧ならではの世界観が滲む作品の数々には定評がある。近作は『淡黄』（2022年現代短歌社）。

「諸行無常のひびき」では、心を見

つめ、言葉に向き合い続けてきた山中師範が、梅花流詠讃歌の歌詞を日常の暮らしのなかにひも解いていく。初回はタイトルにふさわしく『無常御和讃』。人の此の世の儚さは…あわれ常なき世なりけり…歌詞に込められた仏の教えを、より良く生きるための糧となるようわかり易く説き明

他にも一部のコーナーをリニュー

アルした『禅の友』。時事や芸術など、興味深い記事を満載しているので、ぜひお手にとってご一読いただきたい。菩提寺に置いていない場合は、個人で購読することもできる。

なお、「諸行無常のひびき」は公式ホームページ「曹洞禅ネット」でも配信する。

『禅の友』購読申し込みは曹洞宗ブックセンターへ。

フリーダイヤル 0120-498-971
価格(1冊) 80円(税込)
送料(1回) 100円(税込)
年間購読
180円×12ヶ月＝2,160円(税込)

功德のグルメ

これがサツマイモの天ぷら!?
お、重い…迫力がすごい。
焼芋みたいにネットリホックリ。
揚げてコクが出て、あまーい!!



20分以上揚げ、キッチンペーパーでくるんで15分蒸らす。
じっくり、が秘訣とか。
ぜひご賞味あれ。
願わくは此の功德を以って…
ごちそうさまでした。

第23回 スマイルアゲイン

自然災害の被災地支援を掲げ「歌声で捧げよう祈り届けようまごころ」をテーマに有志が開催している「スマイルアゲイン 梅花のつどい」が令和4年9月30日、神奈川県南足柄市の大雄山最乗寺で開催された。



『梅花流創立記念奉讃御和讃』の大合唱



指揮をする北野良昭代表

爽やかな秋晴れの下、天狗伝説で有名な古刹霊場に121名の参加者が集って梅花流詠讃歌の歌声を響かせた。感染症対策もしっかりと行なわれ、安全安心のためのスタッフの配慮が随所に伺えた。

午前中は、代表の北野良昭正伝師範による『無常御詠歌(月影)』の全体講習。そして、本堂前に移動しての記念撮影後に『梅花流創立記念奉讃御和讃』を全員で高らかに歌い

上げた。この様子に、最乗寺山主の増田友厚老師は「素晴らしいですね。ありがとう」と感激の言葉を述べていた。

午後は、御真殿で祈祷法要が厳修され、分科会講習では『正法御和讃』『花供養御和讃』などを練習した。最後に奉詠と読経で法要を営み、被災地復興と自然災害被災物故者追悼の祈りが捧げられた。

参加協力費他から昼食代等を差し引いた、五七万四三七〇円が曹洞宗義援金に託された。これにより、道心利行のスマイルアゲイン梅花のつどいより寄託された累計は一千万円以上となった。尊い浄財は、被災地復興支援のために役立てられる。

